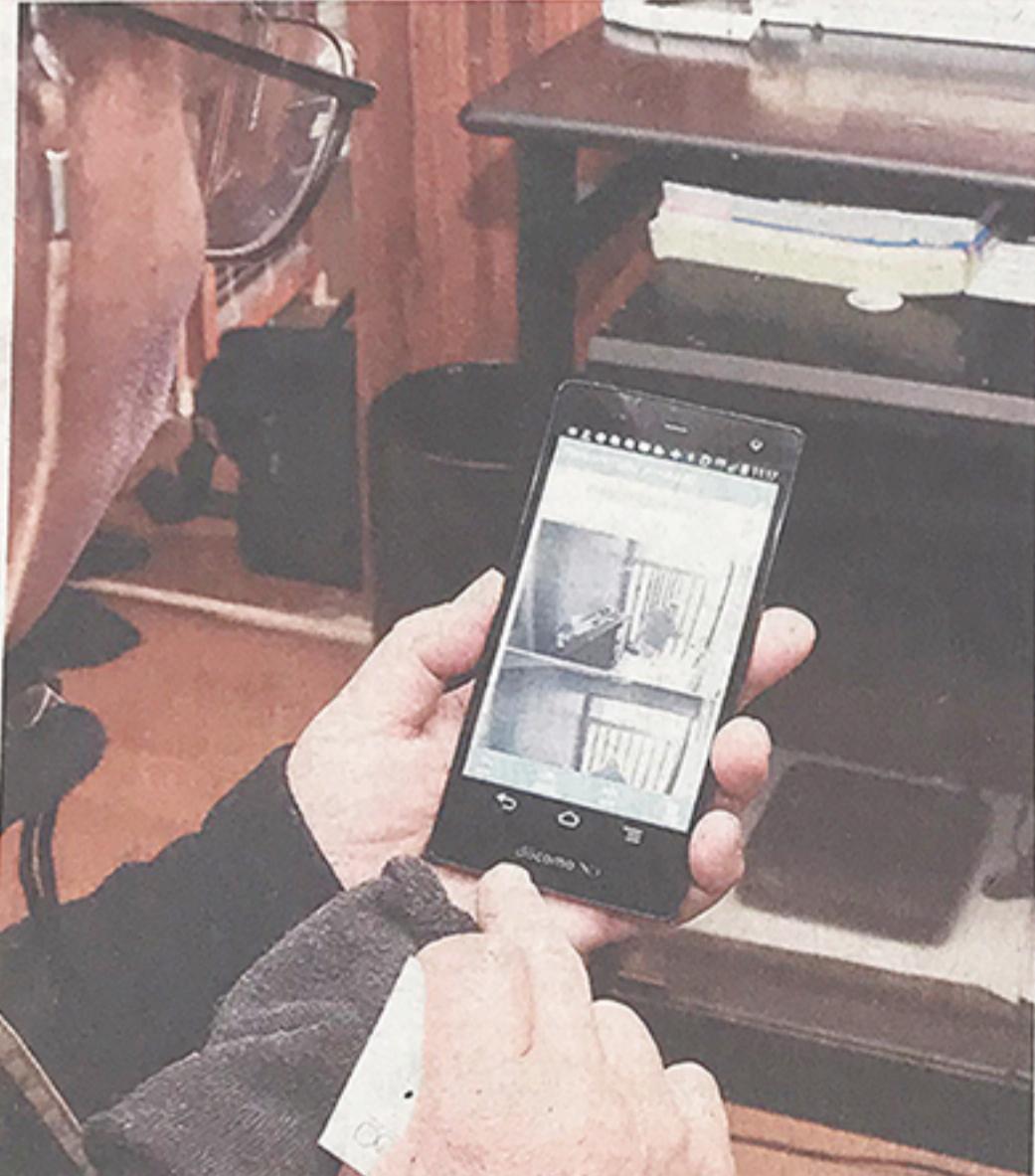


認知症が原因の行方不明者が増えているため、県警は企業と合同で衛星利用測位システム(GPS)を使った実験をしている。捜索は手掛かりが乏しく難航することが多く、徘徊中に事件や事故に巻き込まれる危険もある。地域の関係機関とも情報を共有し、早期発見や関係者の負担軽減につなげる。

(井上仁)

県警と企業が合同実験



上:カメラから送られてきた画像を見る男性=岐阜市で
中:靴の中敷きの下にGPSの発信機をセットした靴

県内の認知症による徘徊の保
護件数は、一昨年は約千五百
件。昨年は十一月末時点ですべて
三百件に上り、県警の担当者は
「命に関わることで再発も多
い。未然防止や早期発見が重要
になる」と話す。

岐阜市の建築士の男性(七二
歳)は、同居の母親(九〇)から目が離
せない。母親は散歩が大好きで、昼夜を問わず一日に二十回
前後は外出する。

認知症徘徊 GPS捜索

何事もなく帰宅することもあるが、四年ほど前から住む今の住宅地は街並みに変化がないため、迷子になることが増えた。昨年六月は一晩中帰らず、自宅から約六キロ離れた岐阜羽島署の近くで保護された時は、はだしだったという。

「なるべく自然に年をとらせ
てやりたい」と、無理に散歩をやめさせることは考えていない。とはいっても、家族で探し回るのは負担が大きい。これまで可

岐阜県版

岐阜支社
〒500-8875
岐阜市柳ヶ瀬通一丁目12番地
058(265)0191
Fax(262)8706
(販売)(265)0265
(広告)(266)4791
(事業)(265)0267
多治見支局
0572(22)3121
Fax(23)5331
大垣支局
0584(78)2030
Fax(74)6460
高山支局
0577(32)0350
Fax(34)5215
関支局
0575(22)3234
Fax(24)3939
ご意見は読者センターへ
052(221)0800
Fax(221)0819
Eメール
center@chunichi.co.jp
掲載写真を購入希望の方は
最寄りの中日新聞販売店へ

梅原猛さん死去に
「心より哀悼の意」
哲学者の梅原猛さんが九
十三歳で死去したことにつ
いて古田肇知事は十四日、
会委員長として、「『円空大賞』の選考委
員会を国内外に広く発信いた
くなど、本県の芸術文化

靴の中敷き下に発信機

度も警察に保護されたことか
ら、「(警察に)お願ひするの
が悪い気がして、電話するか迷
う」と苦笑する。
県警は「昨年、ソフトウェア
会社「ラムロック」(福岡県飯
塚市)と業務提携し、高齢者を
見守るカメラ「みまもりCUB
E」を借り受けている。玄関な
どに設置したカメラが人の出入
りを感じ、撮影した画像がメ
ールで送られてくる仕組みだ。
徘徊を早期に把握でき、服装な
ど搜索の手がかりになる情報が
得られるとして、認知症の家族
がいる希望者に三ヶ月間、無償
で貸し出している。

GPSはその発展版。実験は

昨年十一月に始まり、県警が力
を予定している。靴の中敷き
の下に発信機をセットし、スマ
ートフォンのアプリで居場所を
表示する。情報は同社が管理
し、いざ捜索の必要が生じた時
に利用者からの連絡を受けて提
供される。

また、「認知症サポーター」
の講習を受けた職員がいる、事
前に登録された生命保険会社や
地域包括支援センターにも情報
を提供し、地域ぐるみで捜索す
る。同社は「認知症サポート」
も加わった実証実験は全国初。
利用者の感想を踏まえて、より
良い仕組みにしていきたい」と
している。



建築士の男性は昨年四月に方
メラを設置した。毎晩一時間半
ごとに母親の在室を確認する生
活は変わらないが、出入りを握
できるようになって安心感は
高まったという。

GPSについても「途中で靴
を脱いでしまっても、どの方向
に行つたか分かるだけでも大き
い。県外で仕事をすることもあり
るので、地域の人にも搜しても
られるのは頼りになる」と、こ
れまで勘や目撃情報に頼ってい
た捜索が、スムーズになるのを
期待する。